

2025年度 草の根育成助成 報告発表

「未来を奏でる」
～中高生と創る、子育て応援音楽事業～

NPO法人アーティストグループ musia

全体事業のご紹介と年間予算実績

多世代交流と次世代育成

2013年結成、2018年法人化。クラシックや現代音楽、世界のうた、おはなしなどを通じて、0歳から高齢者までが日常のなかで気軽に本物のアートに触れ、世代や地域を越えてつながる「居場所」を創出している。

年間の事業費実績規模

近年の年間事業予算は100万～150万円規模で推移（令和6年度決算見込み：約150万円）。世田谷子ども基金や各地域の歳末たすけあい募金等の民間助成を活用し、草の根での非営利文化活動を持続させている。

対峙している地域社会の「課題」



都市部における「"孤"育て」の深刻化 地域とのつながりが希薄化する中、孤独感や不安をひとりで抱え込みがちな子育て世帯が、気兼ねなく豊かな時間を共有できる「文化的居場所」が依然として不足している。



若者の社会参画・本物の表現機会の不足 中高生などの若年層が、学校の枠を超えて実社会の職業体験や本格的なクラシック・現代音楽といった創造的な芸術体験に主体的に関わる場が限定されている。



文化活動における社会課題解決と自立の両立 子ども向けプログラムに偏ることなく、大人も子どもも対等に本物の文化芸術を享受する空間を創り出し、かつ非営利活動として持続可能な仕組みを作ることが困難。

助成事業の計画と予算規模

¥324,000 草の根育成事業団 助成確定金額

¥690,580 助成対象事業 経費合計額

若者と創る子育て応援音楽会

コンサートシリーズ『アートな！？音楽会 Vol.4「リズム！！」』の開催を、東京都の「中高生職業体験事業」と密接に連携させ、演奏会の企画から広報、当日のロビー運営までを中高生と音楽家が協働するモデルとして構築。

0歳から入場歓迎とし、単なる子ども向け公演を超えた
質の高いクラシック・現代音楽プログラムの提供を目指した。

危機の発生と延期の苦渋の決断

制作責任者（理事長）の急病

当初、2025年11月24日の開催に向けて順調に準備を重ねていたが、本公演の企画・制作・進行を一身に担っていた理事長が、本番直前の**11月16日**に**くも膜下出血**により突然倒れ、**緊急搬送**されるという不測の事態に直面した。

苦渋の延期判断と地道な再起

安全な本番運営が困難と判断し、11月の公演を中止、**2026年5月10日**への**延期**を急遽決定した。半年間の猶予期間中、既存の地域演奏会などでの告知活動を徹底し、信頼を繋ぎ止めるための地道な周知を継続した。



助成事業の実際：2026年5月10日開催



時をかけるリズム・トラベル

シューマンのアカペラ合唱やピアソラのタンゴ、現代音楽ライヒの「クラッピング・ミュージック」など、質の高い演奏で観客を魅了。



まんまるマラカスワークショップ

ロビーに工作ブースを設置し、手作り楽器「まんまるマラカス」を安価で提供。その場で作った楽器を手に、第四部で全員で合奏に参加。



能動的な参加を促す仕掛け

子ども向け「おんがくノート」を全員に配布。リズム探しや動物を当てる「旅のミッション」形式にし、能動的に集中して鑑賞できる工夫を施した。

困難を乗り越えて収めた 一定の成果

多世代が協働する草の根文化の強み

- ・ 高校生企画準備の成果：11月の急病直前まで、高校生メンバーが企画ミーティングに意欲的に参加し、アイデアをプログラムに吹き込んだ。
- ・ 大学生がバトンを継承：大幅延期により当日参加が難しくなった中高生に代わり、多数の大学生が受付やマラカス工作のサポートに大活躍した。
- ・ 結束による公演完遂：11月の予定が狂っても、多くの購入者が待機し来場。演者・裏方も「実現のために」と結束。



今後の取り組みと新たな課題

🕒 今後の展望（2026年度）

理事長の大井は現在も懸命なリハビリ療養を継続中。本年は大規模な自主イベントの企画は控え、持続可能な組織作りを模索する。

一方で、「東京都中高生職業体験事業」には2026年度も継続して参画し、地域の保育園や児童館での出張演奏を重視して草の根活動を維持する。

⚠ 浮き彫りになった組織の課題

制作責任者一人のスキルやリーダーシップに過度に関与を集中させていた体制から脱却することが急務。

緊急事態が発生した場合でも、円滑に活動を延期・継続し、事務手続きを麻痺させないための「マネジメントの分散化」と「複数人での情報・意思決定の共有体制」の構築を、今後の最大の自立課題とする。